

みんなの童話

ひろちゃんのながぐつ



ひろちゃんのながぐつは、ピンクいろ。ひろちゃんは、ながぐつがだいすきです。はれのひもあめのひも、ながぐつをはきます。

おさんほもながぐつ。さんりんしゃにのるときもながぐつ。ともだちとおそぶときも、かいものにくときもながぐつです。

あるはれたひのことです。

「ママ、おさんほにいつてくるね」ひろちゃんは、ながぐつをはいて、ひとりででかけました。

「トコトコトコトコ」。

いつもでんしゃをみにくる、ガードしたについたときです。とつぜん、ながぐつが、ひろちゃんのをあしをひっぱるように、ぐいぐいすすみだしたのです。

タツタツタツタツ。

ガードをくぐり、たんぼみちをぬけて、ちいさなはしをわたりま

した。あつというまに、しらないみちまできてしまいました。

それでもながぐつはぐんぐんすすんでいきます。ひろちゃんは、ころばないようについていくのがせいっぱい。

「うわあー、こわいよ。まってよ、まってよ」

とつとうひろちゃんは、おおこえでさけびました。そのとたん、ながぐつはピタリととまり、ひろちゃんは、ストーンとふかふかのくさのうえにおっこちました。

「こんにちば、ひろちゃん」

しりもちをついたひろちゃんのまえでおおきなあおいながぐつが、にっこりわらっていました。

ひろちゃんは、めをパチパチさせました。すると、あおいながぐつは、

「ながぐつランドへようこそ。ここは、ながぐつようちえんだよ」と、ながぐつランドのあんないをはじめました。

いろとりどりのながぐつたちが、おんがくにのってたのしそつにおどっています。

ひろちゃんは、さつきまでこわかったことなんかすっかりわすれてしまいました。

「あつちはながぐつがっこうで、そのむこうはゆうえんちだよ」

「ゆうえんち？ いきたい」

ひろちゃんは、ゆうえんちにむかってはしりだしました。すると、トツトツトツと、ちいさいながぐつたちが、ひろちゃんのまわりにあつまつてきました。

「いっしょにのろうよ」

「どこからきたの」

「あそぼあそぼ」

ひろちゃんは、ちいさいながぐつといっしょに、メリーゴーランドやかんらんしゃにのりました。

「たのしかったー」

かんらんしゃのしたでニコニコしながらまっていたあおいながぐつは、ひろちゃんをちやいろいろいえにあんないしました。

そこには、ちよつとよこれたながぐつや、ボロボロになったながぐつが、ならんでいました。

「ここは、ながぐつのいえだよ。ふるくなつたながぐつたちが、やってくるんだ」

（そうだったんだ。わたしのながぐつもあるのかしら）

ひろちゃんは、はじめてかつてもらったあかいながぐつをおもいだしました。

へやのなかでは、くろくてピカピカのながぐつが、せつせとながぐつたちをなおしたりみがいた

りしていました。

「みんな、ピカピカにしてもらって、ようちえんや、がっこうにはいるのをたのしみに行っているんだよ」

あおいながぐつは、しずかなこえでいいました。

ひろちゃんは、だいすきだったあかいながぐつをさがしました。すると、ありました。みおぼえのあるあかいながぐつが、すみっこにちよこんとならんでいました。

「あ、わたしのながぐつ」

ひろちゃんは、ちいさなこえでつぶやくと、あかいながぐつをそつとなでました。

すると、ねむつたようにみえていたあかいながぐつが、キラキラつと、かがやきました。

「あいにきてくれてありがとう」

おもわずめをつぶつたひろちゃんのみみに、かわいいこえがきこえました。

そして、めをひらいたときには、ガードのしたにたっていました。

「ひろちゃん、ひろちゃん」

とおくのほうから、ママのよぶこえがちがついてきます。

ひろちゃんのかげが、ながく、ガードのむこうまでのびていました。

しろやま会員 渡辺郁巴